

文化・芸術



「赤城を望む(渡良瀬にて)」

制作年不詳、油彩、カンバス
24・37cm×33・47cm

足立真一郎 (1904～94年)

足立真一郎は、栃木県足利市に生まれ、日本美術学校西洋画科で絵画を学びました。在学中の27歳の時、帝展に入選。戦後は日展にも出品をつづけ、1957年の日展に「山」という槍ヶ岳の連峰を力強くとらえた作品で入賞して以降、山岳画に徹するようになり、日本山岳画協会にも所属していました。

93年には、光風会名誉会員となるとともに、足利市民文化功労賞を受け、90歳で鎌倉の地で没した画家でした。本作は、錦桜橋の上、新緑が美しくなってきた水道山にある大川美術館で本作を観賞した後、桐生の街を散策しながら、同じように錦桜橋から赤城山を眺め、足立の感じた春の思いをほせてみてはいかがでしょう。

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

93年には、光風会名誉会員となるとともに、足利市民文化功労賞を受け、90歳で鎌倉の地で没した画家でした。本作は、錦桜橋の上、新緑が美しくなってきた水道山にある大川美術館で本作を観賞した後、桐生の街を散策しながら、同じように錦桜橋から赤城山を眺め、足立の感じた春の思いをほせてみてはいかがでしょう。

本作は、錦桜橋の上、

(池田)